

山口新聞

平成24年4月6日(金)

NO.1

過疎化・高齢化などを背景に県内の農村を取り巻く環境は様変わりし、農地、農業用水、ため池などの資源を農家だけで守っていくのは困難になっている。こうした中、2007年度にスタートした「農地・水・環境保全向上対策」が支えとなり、山口県内に300を超える活動組織が誕生、地域ぐるみで農村の資源や景観を守る動きが活発となってきた。どんな活動に取り組み、農村地域がどう変わってきているのか一を紹介する。

農地・水環境

守ろう地域の手で

①



私たちの地域は働く場も少なく、高齢化が進み、農道や放棄田には2、3近いセイタカアワダチ草が繁茂していた。「なんとか、昔のきれいな水の流れる自然豊かな農村にしたい」。そんな思い

から、2007年に河原地域資源保全会を設立した。ここ数年の地域ぐるみの

活動によって、放棄田には力だけでは限界があると感じ、この地域に任んでいる住民の協力を得て、みんな

河原地域資源保全会(長門市)

住民みんなの力を結集



①会員の皆さん②活動のかいあって、川にはメダカ、ドジョウ、ホタルが戻ってきた

やドジョウ、ホタルなどが戻ってきた。先月にはマナヅル13羽が北帰行の途中、羽を休めている。活動を通じて、各世代の多様な人々のコミュニケーションが図られ、河原八幡宮のお祭りも大変にぎやかになってきた。

現在、都会に移り住んでいる人たちも、定年退職後は帰郷して再び住みたいと思ってくれるよう、力を合わせて農村地域を守ってきたい。

(書記、上野靖児)

■金曜日掲載■

【メモ】代表 原田忠久▽会員 農業者43戸、農事組合法人、水利組合、土地改良区、自治会、棚田数え唄、NPO、小学校、保育所▽設立 2007年3月28日▽受賞歴 11年度農地・水保全管理対策中国四国農政局長最優秀賞▽連絡先 長門市油谷河原1243の1、上野靖児 ☎0837・322・1602